



# 上智大学短期大学部

## SOPHIA UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

令和6年(2024年)12月6日

### 通信 第101号

編集・発行 上智大学短期大学部

## 2024年度 SJ祭

### ▷ SJ祭実行委員会委員長・副委員長のコメント

**SJ祭実行委員会委員長 甲斐崎 彩音**

秋の深まりを感じる季節に、本学最後のSJ祭は開催されました。本年度のテーマは「For all, Sophia Junior Festival with us ーいつまでも色褪せない思い出をー」。「For Others, With Others」を胸に、ご来場いただいた皆さまの心にSJ祭がいつまでも色褪せずに残ってほしいと想いを込めました。何度も困難に直面してはその壁を乗り越え、不安が残る中迎えた本番当日でしたが、全ての企画は大盛況のうちに終わり、スウェットやパンも完売し、皆さまの笑顔が輝く一日となりました。

多くの方から愛され、歴史と伝統のあるSJ祭は惜しまれつつも幕を下ろしました。ご協賛企業及び団体の皆さま、教職員の皆さまに謝意を表するとともに、ご来場の皆さまに心より感謝申し上げます。そしてSJ祭を創り上げたSJ祭実行委員の皆さま、本当にお疲れさまでした。

**SJ祭実行委員会副委員長 橘 咲希**

10月26日、無事にSJ祭を開催することができました。今年度のSJ祭は最後の大学祭ということもあり、例年とは違う特別な思いを胸に準備を進めてまいりました。学生、教職員、同窓生の皆さまをはじめとするたくさんの方々可愛られてきたこの学校の一員として、皆さまの温かい笑顔に囲まれた一日を過ごせたことに感謝しています。当日は最後のSJ祭を惜しむ声も多く聞かれましたが、参加されたすべての方々が楽しんでいただけたのではないかと思います。この大学祭が皆さまにとって『色褪せない思い出』となることを心から願っています。



### ▷ 2024年度SJ祭を終えて SJ祭実行委員会顧問 森下 園

第47回SJ祭は左記の実行委員長と副委員長のコメントにあるように有終の美を飾りました。委員長を始め昨年から多くの時間を捧げた2年次生幹部、初めてが最後となるなかで先輩を支えた1年次生委員の祈りが通じ、穏やかな天気となりました。4号館ステージではカラオケ、ファッションショー、ビンゴ、クイズ、ダンスパフォーマンスが行われ、秦野市市長高橋昌和さまのご挨拶と本学学長山本浩先生の挨拶が行われた屋頃には教室は一杯でした。1号館では和サークルのお茶会、SLセンターとSEAのパネル展示、ハロウィン仕様のフォトブース、同窓生ホームカミングの教室では実行委員がプロ仕様で編集したゼミ紹介動画も上映され、ゼミがなかった時代の同窓生が喜んでいました。また教職員有志による編み物カフェが併設され、懐かしい友人・教職員と歓談する同窓生の輪が教室からあふれて中庭や研究棟でも見られました。ソフィア会(同窓会)の同窓会記念式典とThomas Varkey師による感謝の集いもあり在学生・同窓生・新旧教職員およそ500名が集い、実行委員が販売するパンやグッズは完売、中庭のキッチンカーも行列で、にぎやかで晴れやかな日となりました。今年度は例年カラオケ機材を提供くださっている株式会社第一興商に加えて株式会社マンナンライフ、エースコック株式会社のご協賛をいただき、来場者に協賛品を配布して喜ばれました。同じく協賛くださったソフィア後援会、ソフィア会、二幸産業株式会社に御礼申し上げます。色褪せない思い出をその手で作り上げた実行委員学生をたたえ、ご協力くださった教職員の皆さま、特に学生生活担当職員たちに感謝いたします。



## 学位授与式

第50回学位授与式を2024年3月15日(金)に挙行し、152名の学生が卒業した。山本 浩学長は式辞の中で次のように述べ、卒業する学生を祝福、激励した。「皆さんは本学で、探求心を持って物事の本質を探り、問題を見出し、解決法を考えることを学んだ。物事を深く考察する姿勢を身に付け、人として大きく成長した。皆さんは卒業後、それぞれ新しい世界に旅立つが、忘れずにいてほしいのは、何かを判断し、決断するときは、自分の頭で考え、自分で結論を出すということ。不確かな情報や流行や時流に流されることなく、自らの考えで進むべき道を見つけてほしい。また上智の教育精神である「For Others, With Others, 他者のために、他者とともに」も忘れずに、広い大きな世界で他者と関わりを持ちながら、他者のことを考え、他者に手を差し伸べる人であってほしい。皆さん一人ひとりが素晴らしい人生を送ることができますように。皆さんの上に神様の限りのない恵みが降り注ぎますように。」

続いて上智学院理事長、ソフィア後援会会長、ソフィア会会長から祝辞を賜り、学業等で最も顕著な功績を残した学生にジェラルド・バリー賞、3名の学生に準賞が授与された。卒業生代表からの謝辞があり、在学生代表からの送辞で学位授与式は締めくくられた。

2024年度9月学位授与式は2024年9月17日(火)に執り行われ、9名の学生が卒業した。



## 2024年度 第52回 入学式

第52回入学式を2024年4月2日(火)に秦野キャンパス4号館大教室にて挙行した。本学最後の入学者となる64名が入学した。

新入生代表は、次のとおり宣誓した。「コロナ禍を経て、私たちは人との繋がりの大切さを再認識した。上智大学短期大学部の教育精神「他者のために、他者とともに」に基づき、他者とのつながりを大事にし、他者を思い行動できるような人間になりたい。これからの二年間で英語に加え、様々な知識を身に着け、よりたくさんの方の役に立てよう努力する。私たちは、「他者のために、他者とともに」の教育の精神に則り、キリスト教ヒューマンズムのもと、幅広い教養と国際性を習得すべく学業に精進することを誓う。」

入学式後は5年ぶりとなるソフィア後援会主催の新入生ご父母歓迎会が実施された。ご父母同士、教職員との交流を深める機会となった。



Alumnae

http://sjc-alumnae.org/

ソフィア会



上智大学  
短期大学部  
ソフィア会HP

2024年度総会&講演会 5月26日

オール・ソフィアン・フェスティバル (ASF) が開催された四谷キャンパスで、5年振りに対面での総会、及び、1期生 片野順子氏をお迎えしての講演会を実施しました。

上智大学 12号館 502教室

会長挨拶 上智大学短期大学部ソフィア会会長 平野由紀子

2023年、上智大学短期大学部は創立50周年を迎えました。その記念すべき年に母校の募集停止が発表され閉学が決まったことは、卒業生の皆さまにとって大変ショックな出来事だったと思います。いろいろな要因はあるとはいえ、母校の存在がなくなるというのは残念です。けれども、私たち卒業生は生涯、上智大学短期大学部のソフィアンです。ソフィア会は、今後も引き続き銀祝やルビー祝などの卒業の周年行事等を通して、卒業生の交流を深めていきたいと考えています。

総会では、総会議案である活動報告、会計報告、今後の上智大学短期大学部ソフィア会の活動について、等はすべて承認されました。詳細はHPを参照ください。

上智大学短期大学部ソフィア会 (同窓会)  
2023年度 決算報告

(2023年4月1日~2024年3月31日) 2024年3月31日現在

(単位:円)

(収入の部)

費目	金額	備考
前年度繰越金	30,872,548	
2023年度収入		
同窓会費	3,100,000	2022年度2年次生 (@20,000円×155人)
総会及び銀祝参加費	328,000	銀祝参加費(5,000円×65人)、祝状代(1,000円×3人)
寄付金	77,252	ソフィア会活動費 募金箱収入
利息	262,984	上智学院預り金利息(262,936円)、普通預金利息(48円)
他	5,081	コピーカード返金
(2023年度収入小計)	3,773,317	
合計	34,645,865	

(支出の部)

費目	金額	備考
パーティー代その他	281,953	ホームカミング 及び ルビー祝・銀祝 ミネラルウォーター、花代等
通信費	689,821	同窓会事務局通信費(インターネット料金等)
交通費	77,503	役員交通費
文具及び消耗品費	31,382	文具代、コピー代等 卒業生配布クリアファイル代、同窓会案内チラシ代など
会議費	111,288	オンライン会議ツール代(zoom)他
郵送費	15,036	会員あて郵便発送費、郵便代、宅配便等
広告宣伝費	196,003	短大ソフィア会HP維持管理費
慶弔費	0	
交際費	0	
送金手数料・両替手数料	4,719	
寄付金	1,541,020	2022年度募金箱による寄付金(33,000円)、2023年度奨学金(85万円)、50周年記念品中庭テーブル・椅子3セット(658,020円)
(2023年度支出小計)	2,948,725	
次年度繰越金	31,697,140	
合計	34,645,865	



講演会では、上智短期大学英語科一期生となられる片野順子氏に、「世界の文化を日本へ、日本の文化を世界へ」というテーマでお話いただきました。

これまで、100カ国以上の大使館を訪問し、雑誌やテレビ番組を通して各国の文化を紹介するジャーナリストとして活躍されています。たくさんエピソードを紹介していただき、相互の文化交流を通して立場の違う人々の心を繋げていくことが平和に続いていく、というお話に感銘を受けた講演会でした。詳細はHPを参照ください。



10期 ルビー祝・25期 銀祝  
式典&ホームカミング2024 10月26日

最後のSJ祭が開催されている秦野キャンパスにて、感謝のミサ、ルビー祝・銀祝式典及び祝賀会パーティーを開催しました。同時に「ホームカミング2024」も300名以上の卒業生をキャンパスに迎えました。こちらも詳細はHPで御覧ください。

ルビー祝 ごあいさつ

10期生代表 金杉 知子

卒業して40年です。1982年4月、英語漬けの学びが始まりました。Volunteer!! と Concepcion 先生のお声が未だ耳に残る Oral English。「Barryちゃん」なんと当時の私達は学長先生をこう呼び、ご指導頂いた英語音声学。人間学、巽先生の英文学史、赤尾先生の英文講読、土田先生の日米政治史、今里先生の大学英文法、商業英語やタイプライティング、竹之内先生の英米文学の授業ではなぜか授業中の先生のお言葉「冷蔵庫のお掃除は月に一度はするんだよ」が記憶に残っています。白浜さんのチーズケーキは外せません。多忙な2年間を過ごし、1984年4月に社会人となりました。

NHKの朝ドラ「虎に翼」でも描かれましたが、主人公が様々な社会的バリアにぶつかりもがき、克服しようと働きかける姿は私自身の体験と重なって見え、私達も同様に様々なバリアに向き合ってきました。これからも人生は続きます。「For others, With Others」という上智の建学理念の下からスタートを切った私達ですから、周囲と手を携えてさらにしなやかに歩んで行けると思います。



銀祝 ごあいさつ

25期生代表 澤井(星野)知沙

私は若い頃から志していた音楽の道の為に自分でグランドピアノを購入しクラシックとポピュラーの両方のコンクールで入賞し、自宅では指導もしています。3年前に故カスタンニエダ学長の卒業証書の言葉が胸に響きピアノの上に上智短大の卒業証書を置いています。

Congratulations !

I would like you to remember that only you are you. You are a unique person, and there will never be another you.

God created you for a purpose which only you can achieve. My prayer and hope for you on your graduation day is that you will do your best to achieve that purpose as only you can.

Jaime Castañeda S.J.

自分の本当の卒業の日はいつになるのかわからないけれど、これからもピアニスト・作詞作曲家・弾き歌い・指導者として精一杯に、謙虚に人生を学び続けてゆきたいと思っています。



ホームカミング2024

様々な卒業年度の卒業生が集結し、懐かしい学生時代の話に盛り上がりながら多くの笑顔があふれていました。先生方との再会も心温まる光景でした。当日のアンケートからのご意見も一部紹介します。

「バリー先生の優しい笑顔が懐かしい。上短に入学して初めて外国の方と接する機会となり新鮮。授業での知識が今でも役に立っています。今でも交流を続ける友達ができた。自然あふれる環境と美しい富士山、牛の香り。白浜さんのチーズケーキとお昼に迷ったときの学食のカレー。」等々。

母校の閉校を残念に思う気持ち、2年間で培った絆の大切さ、ありがたさ、お世話になった先生方への感謝、心に残る先生からのメッセージ、などたくさんのお声をありがとうございました。



2023年度ジェラルド・バリー賞 2024年3月15日 学位授与式  
受賞者からのコメント (一部抜粋)

本学での二年間は、とても実りの多い時間でありました。SJ祭実行委員長も務め、その活動は忙しく、しかし、全員で協働し一つのものをつくり上げた過程を経て、考え方の多様性を理解し、物事を俯瞰的に捉える大切さに気付きました。また、入学当初から編入学を志し日々勉強に励み、諸先生方、教職員、学友に支えられながら、「決めた目標を妥協せずに達成する」ということを人生で初めて実現することができました。

# Sophia English Day Camp

「Sophia English Day Camp」はサービスマーケティング活動の一つとして、秦野市立小学校（全13校）の6年生児童を学校ごとに本学キャンパスに迎え入れて、様々な英語のアクティビティを行う活動で、本学と秦野市の連携協定のもとに2023年度より実施している。

正課科目「児童英語教育演習」（狩野 晶子教授）の履修生を中心に、多い日には130名を超える児童を受け入れるため、有志の学生のほか、教職員、上智大学生、秦野市ALT（Assistant Language Teacher）も運営に参加している。2024年度春学期は約700名の児童が本学を訪れ、秋学期も約600名の来訪が予定されている。

アクティビティは5種類あり、学内の一定のエリアに隠されたミステリーボックスを探し、中にある謎ときシートに取り組むもの、小学生向けの和英・英和辞典から好きな単語を選び、オリジナルのMy Dictionary



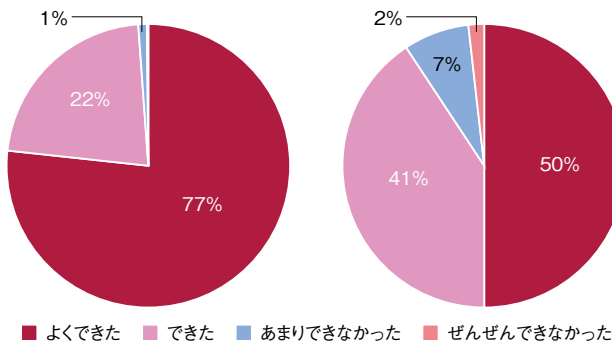
を作成するもの、海の生き物のカードを集め、アクアドームを完成させるものなどがある。楽しみながら英語の聞く、話す、読む、書く能力を使えるよう、どれも趣向が凝らされている。

活動は全て英語で行われるが、学生は児童が飽きずに楽しく学べるよう、英語で語りかけながらも、ジェスチャーや表情も使いユーモアを交えて進めている。活動終了後は、翌週の授業で内容を振り返り、意見を出し合いながら、次の活動に向けて改良と練習を重ねる。

参加した児童からは、「楽しく英語のフレーズを使うことができた」、「3時間があっという間だった。大学生がみんな笑顔で優しく対応してくれた」などの感想が寄せられている。また小学校教員からは、「キャンパスを訪れて大学生と触れ合うことで、児童たちは将来、大学で学ぶことのイメージが広がったようだ」とのコメントもいただいている。

## 2024年度春学期に参加した児童（全6校）のアンケート結果

さまざまな活動に積極的に取り組み、楽しむことができましたか？



## 企画・運営を担当した学生のコメント 2年 秋山 結梨

充実した教材設備を利用し、子どもたちののびのびとした言語活動を推進できる環境に惹かれ「Sophia English Day Camp」に参加しています。全5種のアクティビティを通じて子どもたちは試行錯誤しながら英語を使います。英語が伝わった成功経験を重ねることで、子どもの「もっと英語を使ってみよう」という気持ちを引き出せるよう、工夫を凝らしています。初めは英語しか話せない環境に不安がる子どもたちも次第に活動に前のめりになり、自ら進んで交流を図るようになります。活動後には毎回ポジティブな振り返りが多く寄せられ、手ごたえと喜びを強く感じています。今後も「ピンクベストのお姉さん」として、秦野市の子どもたちと英語を使う楽しさを共有していきたいです。



# 海外短期語学講座

海外短期語学講座は海外での語学力の向上に加え、現地の文化や生活などについて見識を深めることを目的とし、2024年度は上智大学と合同で夏期と春期の休暇中にニュージーランドのThe University of Aucklandで開講されます。なお、2025年度は短期留学プログラムを実施しない予定です。

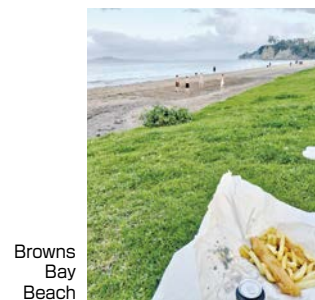
## 2024年度夏期 海外短期語学講座 体験記 1年 大槻 李奈

私の英語学習における弱点は、文法知識の乏しさと語彙の少なさだと認識していたので、この留学を通して改善していくことを目標に、授業や自主学習に取り組んでいました。語学学校で一緒に学ぶクラスメイトにはタイ人や韓国人、中国人の学生もいて、互いの母国語ではなく英語を使って話す中で、英語はコミュニケーションをとるための手段であることに気づきました。授業外でも勇気を持って英語で話しかけることを意識し、留学最後に行った「Use of English」というテスト



では80パーセント正解することができ、努力の成果を実感できて嬉しく思いました。

ニュージーランドでは、バスを交通機関として利用する人が多く、バスに乗るほとんどの人が運転手さんに対して挨拶やお礼を言っていました。また、バスに乗り遅れた人のために停車して乗せてあげる運転手もいて、感謝や優しさを忘れない素敵なニュージーランドの文化に触れることができました。この貴重な経験をさせてくれた全ての方に感謝し、ニュージーランドで学んだことを日本での活動に活かしていきたいと思えます。



Browns Bay Beach



Waiheke Island

## 2023年度 グッドティーチング賞

2023年度グッドティーチング賞に宮崎幸江教授とPaul McQuilling非常勤講師が選出された。グッドティーチング賞は、教育実践に顕著な成果をあげた教員に対し、その功績を表彰する制度で、学生による授業評価アンケート結果も選考基準の一つとなる。



宮崎 幸江教授 Paul McQuilling非常勤講師

### 【受賞した宮崎教授のコメント】

この度はグッドティーチング賞をいただきありがとうございました。私はサービスラーニングの科目を主に担当していますが、これは1980年代から続いてきた外国籍市民への日本語支援を行う「家庭教師ボランティア」を発展させ正課科目としたものです。この20年は大学の社会貢献や学生の能動的な学びを促すアクティブラーニングが教育手法として重視される時代でした。学生がキャンパスの外に出て「学内での学び」を深め、同時に地域の課題解決に取り組むサービスラーニングは、地域と時代のニーズに合っていたと言えます。私自身、教えることを通して様々な経験や学びをいただきました。この場をお借りして、学生や教職員、外国籍市民の方々、秦野市の教育関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

## サービスラーニング活動・地域連携トピックス

### ■ 上智大学で企画展開催

上智大学四谷キャンパス6号館1階展示スペースで、企画展「他者のために、他者とともに：上智大学短期大学部サービスラーニングの挑戦」が2023年10月から2024年1月まで開催された。SL活動の前身である「家庭教師ボランティア」が始まった経緯や時代的背景、それがSL活動へと発展し、活動が担う役割や意義についてパネル及び動画で紹介された。



企画展終了後、パネルは短期大学部に移管され、秦野市内の各小学校でも展示された。パネルは本学ウェブサイトでも公開中。



サービスラーニングの挑戦

年表

### ■ サービスラーニング ブックレット

SL活動の日本語支援に焦点を当て、その活動内容や意義、関係者のコメントを掲載したSLブックレットを発行した。35年以上続くこの活動をより多くの人に知ってもらい、閉学後も継承されていくことを願い作成した。上智大学学生センターでも配布され、秦野市の各小学校等にも送付した。本学ウェブサイトでも公開中。



サービスラーニングブックレット

### ■ 上智学院 創立記念プログラム「サービスラーニング活動の紹介・ワークショップと出雲大社相模分祠参拝」開催

上智学院では、毎年11月1日の創立記念日に教職員を対象とした記念行事を実施している。学院の一層の発展に向け、本学のミッションを再確認することを目的とし、例年5つのプログラムが企画され、教職員はうち1つを選択して参加する。2024年度は短期大学部が標記プログラムを企画、運営した。当日は上智大学の教職員を含む60名がSL活動ワークショップに参加し、その後は秦野キャンパスを見学、出雲大社相模分祠を訪れ、参拝した。



## フードバンク活動 学食100円

昨今の物価上昇は学生の生活にも大きな影響を及ぼしており、生活費の不足などにより食料を十分に得られない学生への支援として、本学ではフードバンク活動の実施および学食を100円で販売している。

フードバンク活動は、学内有志により2023年12月に発足し、2024年度秋学期よりソフィア後援会からの寄付金を得て、支援内容を拡充した。従来どおり各家庭で余っている食品やご厚意による食品の提供を受けて、希望者へ食品を配布する方法に加え、奨学金受給者でかつ一人暮らしの学生の中から希望者を登録し、食品を計画的に配付するという方法の二種類の支援を2024年10月から開始した。

## 上智大学短期大学部 2023年度決算及び2024年度予算

(単位：千円)

		科目	2023年度決算	2024年度予算	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	294,105	234,549	
		手数料	4,291	456	
		寄付金	750	0	
		経常費等補助金	58,244	62,013	
		(国庫補助金)	(58,210)	(61,962)	
		(地方公共団体補助金)	(35)	(51)	
		付随事業収入	369	0	
	事業活動支出の部	雑収入	617	1,077	
		教育活動収入計	358,376	298,094	
		人件費	355,934	397,830	
		(退職給与引当金繰入額)	(4,029)	(38,448)	
		教育研究経費	272,217	144,673	
		(減価償却額)	(51,983)	(41,695)	
		管理経費	41,626	21,448	
教育活動支出計	669,777	563,951			
教育活動収支差額			△ 311,400	△ 265,857	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	5,381	0	
		その他の教育活動外収入	0	0	
		教育活動外収入計	5,381	0	
	支出の部	借入金等利息	0	0	
		その他の教育活動外支出	0	0	
		教育活動外支出計	0	0	
教育活動外収支差額			5,381	0	
経常収支差額			△ 306,019	△ 265,857	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	
		その他の特別収入	572	81	
		(施設設備寄付金)	(550)	(0)	
		(現物寄付)	(22)	(81)	
		(施設設備補助金)	(0)	(0)	
	特別収入計	572	81		
	支出の部	資産処分差額	2,077	811	
		その他の特別支出	0	0	
		特別支出計	2,077	811	
		特別収支差額			△ 1,505
〔予備費〕					
基本金組入前当年度収支差額			△ 307,524	△ 266,587	
基本金組入額合計			△ 14,616	△ 2,000	
当年度収支差額			△ 322,140	△ 268,587	

※各欄の金額は四捨五入しているため、表中の計算は一致しない。

## 2025年度 上智大学短期大学部学生納付金

(単位：円)

費目	在学生 (2024年度入学者)	在学生 (2023年度以前入学者)	備考
在籍料	60,000	60,000	年額
授業料	707,000	707,000	年額
教育充実費	180,000	180,000	年額
小計	947,000	947,000	
同窓会積立金	20,000	-	2年次徴収
英語力テスト受験料	3,130	3,130	年1回
学生教育研究災害傷害保険料	-	800	保険期間2年 <sup>(注)</sup>
小計	23,130	3,930	
合計	970,130	950,930	

(※) 修業年限を超えて在学する場合は、1年毎に800円の納入が必要

学食100円モソフィア後援会の寄付により実現した。学生食堂の日替定食、お好みランチ、カレー等のメニューを週2回100円で販売し、定価からの差額は寄付金により補われる。1日の販売食数は上限が設定されている。2024年10月から開始し、2025年1月まで実施予定。

